

かすかに残る史跡を訪ねて

廃線コース

コンセプトポイント



1 尾上駅跡

加古川駅から高砂市の高砂駅までを結んでいた、日本国有鉄道高砂線の駅跡。尾上駅は大正2年に播州鉄道の尾上駅として開業。1943年に国鉄高砂線の駅となるが、時代の流れにより1984年に廃止となった。ホーム跡は廃線後に撤去されてしまったが、駅跡を示す動輪と、尾上駅の歴史を語る石碑が設置されている。

チェックポイント 駅の跡には動輪が残されており、当時の様子をうかがい知ることができる。



2 野口駅跡

1913年、播州鉄道の北在家駅として開業し、翌年の1914年に野口駅と改称した。その後、別府鉄道野口線が開業し、野口駅は播州鉄道と別府鉄道の接続駅となった。1945年、時代の流れにより不要不急線として一時休止を余儀なくされた。その後営業を再開したが、運行本数が少ないことや国鉄山陽線などができたことにより、惜しまれつつも廃線となった。

チェックポイント 駅の跡には、線路や車輪、駅名標が残されており、当時の様子をうかがい知ることができる。



3 松風こみち

別府鉄道のレール跡地に作られた道で、全長は約3km。市の木である黒松と、市の花であるつつじで彩られた歩行者・自転車の専用道で、加古川市の官庁街から住宅街を経て臨海部へ続いている。途中休憩所や公園があり、ゆったりと歩くことができる。100m毎に距離標があり、歩きやすい道となっている。

チェックポイント ところどころ地面に当時のレールが残っている。



4 円長寺駅跡

別府鉄道の駅跡。1931年、三岐鉄道の「キハ5」として日本車輛で製造された気動車が残っている。車両は、1964年に別府鉄道が三岐鉄道から譲り受けた後、主に野口線で使用された。車両としての役目を終えた現在は公園内で静かに佇んでいる。

チェックポイント 当時の運行表もそのまま残されており、当時の列車の運行状況を知ることができる。

昭和の時代、加古川の町の交通手段として親しまれていた別府鉄道。

それぞれの駅の跡や、軌道の跡地を利用して作られた松風こみちには当時の面影が残っています。

かつて鉄道が走っていた道を散策してみませんか？

